

●●●●●●●●小学生対象の出張講座●●●●●●●●

「谷川士清の会」が発足した当初から、啓発部の今年度の一番の事業は「谷川小伝」を利用した小学生対象の講座であった。趣旨は「地元出身の偉大な国学者、谷川士清について、子供たちが理解し郷土を愛し、自らの学習活動の励みになることを、目的とする。」である。

まずは、自分たちの知識を正すため、5月から小伝の勉強にかかった。三ツ村健吉氏の講義を受け、次回からは会員間で意見を交えながらなんとか最後までいきついた。津市内二十二校の小学校で四年生が使用する副読本に「谷川士清」が載っていること。また、副読本を秋に学習するということから、開催時期は夏休みに一日「親子洞津谷川塾」を教育委員会、文化課と共催で実施する。更に秋にご依頼の学校へ会員が出向き、士清の話をしようと思った。全部を回るには三年かかる。今年の出来具合で来年以降の依頼数に影響がある。内容検討にも真剣味が増す。

士清ゆかりのビデオを放映し、一校一名の講師が出向き、自分なりに士清について話をする。ビデオは「みえフレンズビデオクラブ」の川村輝雄氏が暑い最中、汗を流して撮影、編集してくださった。配布するテキストは私が種々のパンフレットから抜粋して子供向けに直し、三ツ村氏に目を通していただいた小冊子を使うことにした。今年の講師は渡辺一夫・竹内令・小田加代子各氏と私の四名と決まり、何度も話の内容を検討した。依頼が養正・西が丘・一身田・修成・育生の各小学校からあり、担当を決め些か緊張してその日を迎えた。

私は西が丘小学校を担当したが、日頃高校生に数学を教えているものの、小学生は初めて。不安な気持ちも、子供たちの前に立ち、きらきら輝く好奇に満ちた目を見た瞬間、吹き飛んでしまった。話の後でのアンケートに「士清は辞典にしようという時に亡くなったが、子孫の人がその後百十年もかけて完成させたのがすばらしいと思った。」「士清は津で一番えらい人だと思った。ぼくもみんなの役にたつ人になりたい。」と書いた子供たちに夢を託してみよう。さあ次年もがんばろう。 (馬場)

アンケート (西が丘・修成 計223名)

1. 谷川士清の名前を知っていましたか。…………… はい (174名)
2. 谷川士清が津で生まれたことを知っていましたか。…………… はい (141名)
3. 谷川士清が住んでいた家に行ったことがありますか。…………… はい (23名)

楽しかった親子洞津谷川塾

——初めての試み成功——

場所は新町会館。日時は8月10日(火)9時半から。市民に谷川士清という国学者に親しんでもらうための企画として、谷川士清の未公刊の著『怪談記野狐名玉』(かいだんきやこめいぎょく)を再話したお話し会を楽しんだ。教育委員会で市内全小学校四年生を対象に募集した中から、抽選で50組100名が参加した。

顧問三ツ村健吉氏と研究部が原典五巻の解説をし、一部口語訳と子供に判るお話しにする再話には、童話グループ「あの津っ子の会」(代表内海康子氏)に協力してもらって実現した。

田中教育長から「はじめのことば」を、三ツ村氏から「谷川士清の子ども塾」の経緯について、代表増田孝、副代表森晋から「谷川士清の会」について説明があった後、いよいよお楽しみ会が始まる。「あの津っ子」の会員五人は、黒のおそろいのTシャツで熱演。趣向を凝らした演出に会場の子供もお母さんお父さんも楽しそうに拍手。出し物は次のとおり。

★『安濃津むかしのはなし』より(司会朗読・内海、朗読・佐野)

★『怪談記野狐名玉』より ○彦右衛門の化け猫退治(パネルシアター作・演出、日間賀京子) キツネつきの太次兵衛(音声朗読、鈴木紀子) ○たましいの子育て ○ちょうちんお化けの頼みを聞いた飛脚の話(以上2つはテープサートによるお話し・内海ほか) ○きつねとたぬき化けくらべ(大型手作り絵本作りとお話し・小林茂美)

お話を聞く会の後、参加者を谷川士清旧宅と反古塚のある谷川神社へ研修部で案内した。(佐野)

